

音楽のおくりもの **information**

# Spire\_M

P.2 **幼児期の  
音楽的な表現を知る**

福島学院大学教授 伊藤 俊彦

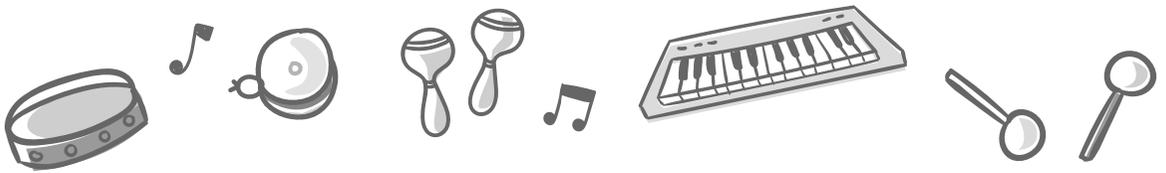
P.6 **楽しいスピーカークラフトの  
ススメ** 編集部

日曜大工でできる!  
高音質!



P.12 **「授業お役立ちシート集」の  
ご紹介** 編集部





# 幼児期の音楽的な表現を知る

福島学院大学教授 伊藤 俊彦

## はじめに

4～5歳の幼児（女の子）が口をもぐもぐさせながら何やら独り言を言って遊んでいるので、一体何を話しているのかと近づいてみると、NHKのテレビドラマ「あさが来た」の主題歌「365日の紙飛行機」を歌っているのです。また、1年半ほど前には同じように幼児が、アニメ映画「アナと雪の女王」の「ありのまま」を好きなように踊りながら歌っている姿を目にしたことがあります。大人である私が、何度聴いても覚えられない長い歌詞やポップス調の旋律、体全体を使った動きなどを、いとも簡単に表現しているその姿を見て、幼児の音楽に対する興味や関心、そして意欲的に表現している感性の素晴らしさに改めて感心しました。

文字も楽譜も読めない幼児が、自ら音楽を何度も聴いて覚えて歌ったり、映像を見てアニメの主人公になったつもりで動きを模倣したりして、自分なりに自由に表現できるその素晴らしさは一体どこから生まれるのでしょうか。また、幼児期の音楽的な表現は、どのようなことを体験し、その体験の深まりや連なりがよりよい感性や表現する力として幼児の将来へどのように繋がっていくのでしょうか。

本稿では、このようなことを念頭に置き、「幼児期の音楽的な表現を知る」というテーマで以下の項目を基に考えてみたいと思います。そして、このことが契機となって小学校1年生の音楽の指導に少しでも有効な形で繋がっていくことができれば幸いと考えています。

## 1 幼児期の子どもは人格形成の大事な基礎づくりの時期

まず教師は、幼児期の子どもが、人間としてどのような成長過程を辿っているのかを知る必要があります。子どもが両親から生を受け、新生児として約一ヶ月も経過すると乳児と呼ばれるようになり、その乳児が一年半もすると歩いたり片言でしゃべったりするように成長します。この時期は、子どもの大脳皮質が急速に発達し、新生児特有の反射行動から環境に対して能動的な行動へと変化するためであると言われています。そして、乳児から小学校入学頃までの間にさらに大きな変化を遂げるようになります。この時期を一般に幼児期と呼んでいます。

また幼児期の子どもは、身体運動の充実期であり、基本的な生活習慣の自立するときでもあります。したがってこの時期は、人間が生涯にわたって人格形成の基礎となる力を培う上でとても重要であると言えます。ですから幼児期の子どもを教育するに当たっては、知的教育に偏することなく、生活全般を通してその発達を助長するために、好ましい体験を積むことができるような文化財や教材を準備する必要があります。

## 2 幼児期の教育は遊びを通じた総合的な指導で

次に、幼児期の子どもは、どのような教育を受けているのかを見てみます。ご承知のとおり教育の営みは、子どもの望ましい発達を願うとともに、子どものもっている可能性を引き出し、人間としての人格を形成するためのものであります。中でも幼児期の教育は、前述したように人格形成の基礎を培う上で重要な役割を担っていると言えます。

ところで幼児期の教育といっても、家庭での教育をはじめ、幼稚園での教育、保育所での保育、認定こども園の教育・保育といったように幾つかの教育機関があり、それぞれの教育機関がもつ目的や特質

に相通じることもあれば、そうでないこともあります。そこで本稿では、紙面の都合なども考え合わせ、幼児期の教育を幼稚園での教育に絞って述べることにします。

幼稚園では、幼児期特有の特性を踏まえながら、発達や学びの連続性、家庭や幼稚園などでの生活の連続性を見定め、計画的に環境を構成することを通して幼児の健やかな成長を促すための教育活動を行っています。この環境を通して行う幼児教育にふさわしい指導方法が、遊びを通して行う総合的な指導と言われています。

### 3 幼児が身に付けてほしい内容を5つの領域にまとめてある

次に、幼稚園での教育は、どのように行っているかを幼稚園教育要領から見てみます。幼稚園教育要領には、幼児が幼稚園終了時までには育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などの健全な育成をねらいとし、そのねらいを実現するために幼児の発達の側面から以下のように5つの事項を領域として編成し、幼稚園の生活全体を通して幼児が様々な体験を積み重ねながら、次第にねらいが達成できるように示されています。そして、その事項を基に、各幼稚園で教育課程を編成するとともに、それに基づいた指導計画を作成し、適切に構成された環境の中で、遊びを通じた総合的な指導を行うための教育活動を行っています。

この5つの領域とは、

- ① 心身の健康に関する領域「健康」
- ② 人とかかわりに関する領域「人間関係」
- ③ 身近な環境とかかわりに関する領域「環境」
- ④ 言葉の獲得に関する領域「言葉」
- ⑤ 感性と表現に関する領域「表現」

であります。この5つの領域は、ねらいに即した具体的な内容として、幼児が身に付けていくことが望まれる事項です。

### 4 幼児期の音楽的な表現に関する領域とねらい

次に、幼児期の音楽的な表現が目指すものは何かということについてです。幼児期の音楽的な表現は、小学校のように「音楽」という示し方ではありません。ですから幼稚園では、前述の5つの領域で編成された第5番目の、「感性と表現に関する領域「表現」」に当たる事項が音楽的な表現に関する内容となります。

この「表現」は、5領域の中で「感性と表現に関する領域」ということで、目指すところは幼児の創造性を豊かにすることです。そのためには、幼児が日常の生活や遊びの中で感じたことや考えたことを自分なりに素直に表現できるようにする必要があります。幼稚園教育要領では、この「表現」領域のねらいを次の3点に示しています。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

もちろんこのねらいは、音楽だけではなく感性と表現にかかわることですから、幼児が身近な周囲の環境とかかわりながら、そこから得る様々な感動、不思議さ、優しさや美しさといった心の動きを自分なりに感じ取って表現することができるようにしていくことであります。

## 5 幼児が音楽的な表現にかかわる内容

次は、幼稚園で幼児が実際にどのような音楽的な表現を行っているかの内容です。前述のとおり、幼稚園教育要領の第2章「ねらい及び内容」には、5領域の第5番目に「表現」の事項があります。その「表現」をさらに具体化した内容が8項目に亘って示されています。その8項目の第6番目が「(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」であります。したがって、この部分が主として幼稚園で幼児が音楽的な表現にかかわる内容となります。

ここでは、幼児が自分の思いのままに歌ったり、歌に合わせて体を動かしたり、また、身近にある簡単な打楽器を使ってリズムを打ったりしながら、音楽を表現する心地よさを十分に味わう活動が考えられます。こうした音楽的な表現は、幼児が自分の思いや感じたことに気持ちを込めて表現することで、表現する楽しさが増してくるものと思います。ですから、幼児が幼稚園で好きな遊びをして楽しく生活する中で、音楽に親しみ表現しようとする意欲や態度が育っていくものと考えています。

しかし、ここで気を付けなくてはならないことがあります。それは、幼児が音楽的な表現を楽しんでいるときに、歌い方や音程の違いを正したり、打楽器の正しい打ち方を指導したり、リズムの間違いを指摘したりしないことです。大事なことは、幼児自らが音や音楽を表現することを楽しいと感じるように、教師が幼児の音楽的な表現を笑顔で受け止め、音楽的な表現を認めてあげることです。また、教師は幼児と一緒に歌ってあげたり、友達を誘って歌に合わせて楽器を演奏したりすることで、幼児の音楽にかかわる表現を広げ、表現する楽しさを共有することができるようになります。幼児期のこうした音楽的な表現の積み重ねが基になって、幼児が将来の音楽を楽しむ生活に繋がっていくものと考えています。

## 6 幼児期の音楽的な表現の具体例

次は、幼児（年長）の音楽的な表現の実際について見てみたいと思います。

例えば、来月の幼稚園行事で行う「敬老の日参観日」で、招待客である祖父母の方に何か子どもたちのパフォーマンス（音楽的な表現）を披露できないかと考えているとします。そこで教師は、早速環境作りの準備に取り掛かります。今回のパフォーマンスは、子どもの歌に合わせて簡単なリズムを演奏し、祖父母に聴いてもらって、お祝いの気持ちを表そうという計画です。そのために教師は、子どもの好んで歌う歌を何曲か選曲し、登園直後や食事の時などに何気なく聞かせておきます。当然教師もその楽曲に合わせて表情豊かに歌ったり、子どもと一緒に歌ったりします。次に、楽器を使ってほしいことから、テーブルの上に木琴の“ばち”やタンブリン、空き缶などを用意しておきます。するといつの間にか、幼児が教室の中で“ばち”を持って床を叩いたり、空き缶を叩いたりし始めたとします。幼児は、そのうちに叩く物（空き缶やタンブリンなど）や場所で音の違いがあることに気付き、次第に音探しが面白くなっていきます。そこで次から次へといろいろな所を打ち始め、今度はリズムを変えたり友達を誘って交互に打ち合ったりすることに発展していったとします。その様子を教師が温かく見守っていて、ときには驚いた様子を示したり、あるいは「いい音がするね」、「お話ししているみたいだね」などと共感する言葉掛けをしたりします。そうすることで、教師の存在が幼児の遊びに対する安心感と気持ちを安定した状態で支えることに繋がっていきます。また、幼児が口ずさむ歌を笑顔で聴きながら、歌に合わせて首を振るなどの動作を幼児と一緒にやってします。これもまた教師の存在が幼児の安定した状態を支えていることとなります。そして「そのいい音やリズムを何かと合体できないかしら？」と投げ掛けてみます。すると子どもは、「大好きな〇〇の歌に合体させたらいいかも知れない。」と言うこととなります。このように、幼児の何気ない遊びの中で表現される音や音楽（歌）を、自分たちだけで楽しむのはもったいないので、誰かに聞かせたいという提案を教師がします。誰に聞かせたいかを出させ、その中に敬老の日が近いことも含めておきます。子どもたちはきっと「敬老の日参観日」を選択し、自慢の演奏を祖父母と一緒に楽しんでくれると思います。（子どもたちの楽しい遊びは、教師が周到に

用意した指導内容となります。)

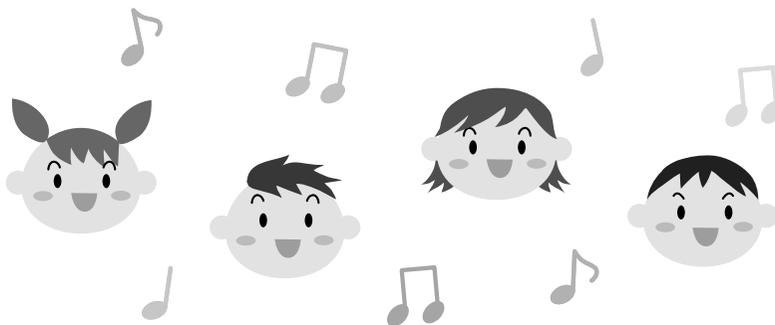
このようにして幼稚園では、幼児が春夏秋冬を通しての行事や自然とのかかわりに大きな関心をもって生活をしています。ですから、これら幼児を取り巻く環境は、幼児にとって興味ある素敵な遊びの玉手箱でもあります。この玉手箱にある一つ一つの宝物は、幼児の楽しい遊びの結晶として幼児の成長に欠かせないものとなります。

## 終わりに

以上、1～6までに述べてきたことは、幼児期という子どもの発達や特性、幼稚園教育要領に示された内容と幼児期の音楽的な表現に関するものでした。ご存じのとおり幼稚園では、子どもたちが安定した情緒の下で、遊びを通して自らを十分に発揮して音楽的な表現をしています。それを見守る教師は、幼児一人一人をしっかりと観察しながらも喜怒哀楽に満ちた表情で、あるときは褒めたり認めたり、またあるときは共感したり感動したりして、幼児が表現することに喜びを感じ、意欲的に表現できるように指導を行っています。幼児期の子どもたちが安心して音楽的な表現ができるのは、こうした表現することに安心感があるからだと思います。遊びを通して身に付けることができた音楽的な感性や表現する喜びは、この先の小学校から生涯に亘っても更に発展させていくことができるように継続・発展していく必要があると考えています。

ですから、幼稚園では小学校の音楽科（低学年）の内容を理解し、また小学校の1年生を受け持つ教師は、幼稚園で子どもがどのようにして音楽的な表現を身に付けてきたかをよく知った上で、教科としての「音楽」の指導を行っていくことが幼稚園教育の「表現」領域と小学校音楽科の接続をスムーズにしていこう道筋ではないかと考えています。

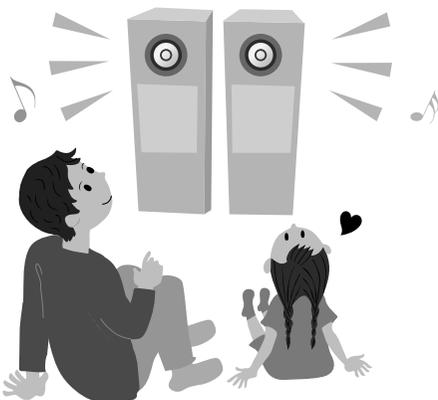
【参考文献】幼稚園教育要領解説



楽しい

# スピーカークラフト の ススメ

作・構成 編集部



筆者の自宅には、25年前に自作したスピーカーがあります。ラワンの合板をノコギリで切って箱を組み立て、10cmのフルレンジスピーカーユニットをはめ込んだ簡単なものですが、初めて手づくりしたスピーカーからは、予想を超えた良い音が出てきて驚いたものでした。それから長い間、直射日光や子どものいたずらにも耐えながら、タフに音楽を鳴らしてきたそのスピーカーは、ついに昨夏故障し、音が出なくなっていました。



さて、どうしたものか…。スピーカーユニットを交換するだけで簡単に再生することも可能です。しかし、愛着もある一方で、自作スピーカーの第一号機であり、木工も得意ではないので形は不恰好。おまけに古くなって汚れや変色も目立ち、家族には不評です。そんなある日、図書館で様々な自作スピーカーの設計図が掲載されている本を見つけ、それをパラパラとめくっているうちに、新しいスピーカーを作ってみたくくなりました。

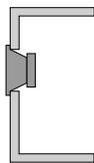
自作一号機のエンクロージャー（スピーカーユニットを入れる箱）は、初心者ということもあり、バスレフ型と呼ばれる、大変シンプルな構造のものでした。今回はちょっと凝ったものにしたと考え、自作スピーカーの専門書で調べてみました。

スピーカーのエンクロージャーは、平面バッフル型、後面開放型、密閉型、位相反転（バスレフ）型、バックロードホーン型など、いくつもの種類があるようです。密閉型やバスレフ型は市販のスピーカーでよく見る形ですが、バックロードホーン型というのはあまり見かけません。なんでも、スピーカーユニットの裏側から出る主に低音を、長いホーンで増強させる仕組みになっているとか。これは面白そう。内部構造が少し複雑ですが、その分、作り甲斐は大いにありそうです。ということで、今回はバックロードホーン型を作ることに決めました。

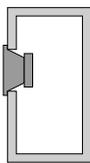
## エンクロージャーの例



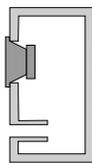
平面バッフル型



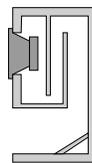
背面開放型



密閉型



位相反転  
(バスレフ) 型



バックロード  
ホーン型

## ◎ パーツの購入

材料は、次のものを購入しました。工具はノコギリ、金槌、半田ごてなどを使用しました。

### オーディオ専門店

- ◎ スピーカーユニット×2
- ◎ ケーブル ◎ 吸音材 (フェルト)
- ◎ ターミナル

### ホームセンターで

- ◎ ラワン合板 (910mm × 1820mm × 15mm) × 3 枚
- ◎ 木工用ボンド (500ml 入り) ◎ 釘 ◎ サンドペーパー
- ◎ ヤスリ ◎ ニス ◎ 刷毛

さて、まずはスピーカーユニット探しです。東京の秋葉原にあるスピーカーの専門店、コイズミ無線さんへ相談に行きました。秋葉原駅に程近い店内に入ると写真の通り、スピーカーユニットやパーツが所狭しと並んでいます。価格もお手頃なものから高級品まで幅が広く、迷ってしまいそうです。しかし、心配は無用。ご自身もスピーカー製作の経験が豊富な店員さんが、用途や予算などの希望に合わせて、パーツ選びを一緒に手伝ってくれました。スピーカーユニットは、筆者の好みで fostex のバックロードホーン用フルレンジユニット FE108E Σ を選びました。スピーカーをアンプにつなぐためのケーブルも価格の幅が広いですが、使用するアンプとのバランスも考え、中くらいのものになりました。その他、ターミナル (スピーカーをアンプにつなぐためのパーツ) や吸音材 (フェルト) も、店員さんおすすめのものを購入しました。

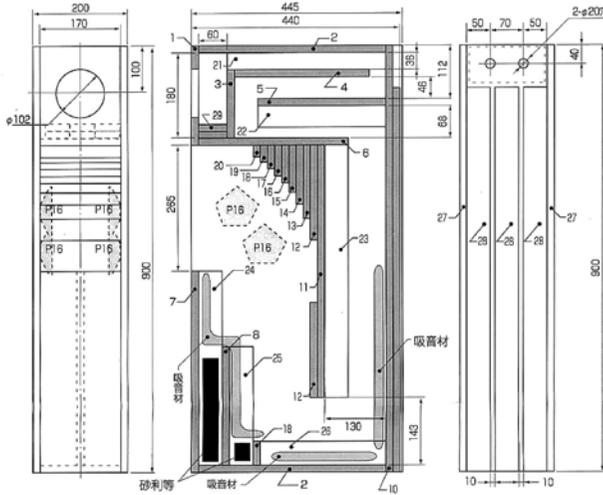


次に、エンクロージャー用の板の購入です。近所にある大型のホームセンターをのぞいてみると…ありました、陳列棚にいろいろな材質の合板が並んでいます。筆者は値段が安く、加工もしやすいなどの理由で、ラワンの合板を購入しました。スピーカー2台の製作で、サブロク (3尺×6尺) と呼ばれる大きさの板を2枚半使います。スピーカーは左右に並べて使うものなので、木目や色が左右で合っている方が見た目もよいですね。木の色や木目が比較的近いものを選んで購入しました。

筆者がお世話になったホームセンターでは、木材加工サービスがありました。スピーカーユニットの説明書には、おすすめのエンクロージャーの設計図 (p.8 参照) が付いています。これをもとに、木材加工の担当の方と相談して、各部品に加工してもらいました。今回作ったエンクロージャーは、部品点数が多い (80点!) ので、カットするのも、それなりに時間がかかりました。カットが終わってから、

各部品がサイズ通りに仕上がっているかの確認作業がありましたが、想像していたより誤差は少なかった（1mm以下でした！）です。昔に作った自作一号機の場合は、自宅で電動ノコギリなどを使って合板を切りましたが、直角や直線を正確に切るのは、とても難しかったです。また、どうしてもサイズの誤差が出てしまい、組み立ての際には削ったり、パテで埋めたりと、大変苦勞したことを記憶しています。それに比べると、今回は大幅に手間や時間が節約でき、以前より工作が手軽なものになったと感じました。

FE108E Σ 取扱説明書より



■応用例周波数特性 (無響室 1m)

■エンクロージャー設計値

- ホーン長 210mm
- ホーン開口面積 450.5cm<sup>2</sup>
- 空気室 1.57L
- スロート面積 40cm<sup>2</sup>
- ホーンロスオーダー周波数 300Hz
- カットオフ周波数 30Hz
- 広がり係数 1.12

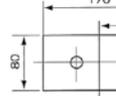
■用意するもの

- ユニット: FE108EΣ
- 端子: T100
- 材料: 15mm合板 (2台分)
- 木工用ボンド
- 木ねじもしくは釘等
- チューニング部材: P16...8枚
- 吸音材少々

■調整方法

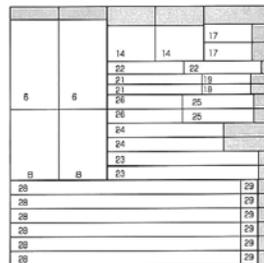
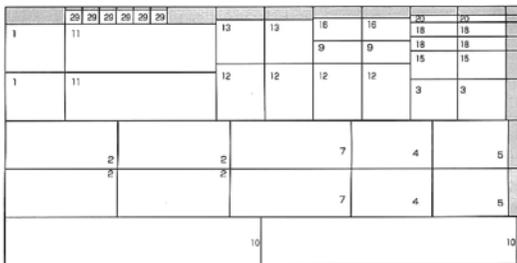
- 吸音材は裏を参照し3ヶ所入れて下さい。
- P16チューニング部材はホーン開口付近に図の様に取り付け、定在波を低減させます。
- デッドマスとして図の位置に砂、砂利等を充填すると効果的です。

●端子板9詳細図



■板寸法一覧 (1台分)

番号	寸法 (W×H)	枚数	番号	寸法 (W×H)	枚数
1	170×210	1	16	170×80	1
2	170×385	2	17	170×85	1
3	170×144	1	18	170×50	2
4	170×285	1	19	170×36	1
5	170×271	1	20	170×25	1
6	170×315	1	21	335×36	1
7	170×425	1	22	271×45	1
8	170×250	1	23	532×50	1
9	170×80	1	24	410×50	1
10	170×900	1	25	250×50	1
11	170×532	1	26	265×50	1
12	170×200	2	27	900×445	2
13	170×155	1	28	810×50	3
14	170×125	1	29	80×50	6
15	170×100	1			

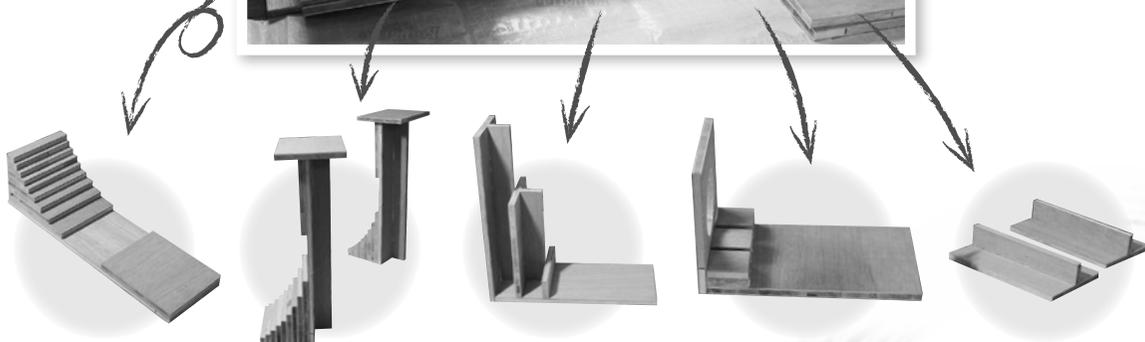
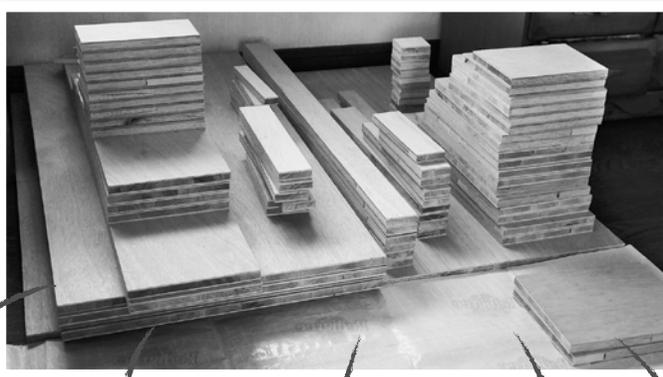


木材加工の待ち時間に、木工用ボンドや工具なども一緒に購入しました。木工用ボンドは500ml入りを「ちょっと多すぎるかな？」などと考えながら買い物かごに入れましたが、結局製作の最後では少し不足することになりました。エンクロージャーの組み立ての際、接着はボンドが主役になります。複雑な内部構造の気密性を高める目的で、ボンドを多めに塗っていくために、使う総量は予想より多くなりました。その他、釘やサンドペーパー、塗装用のニスや刷毛なども一緒に購入しました。

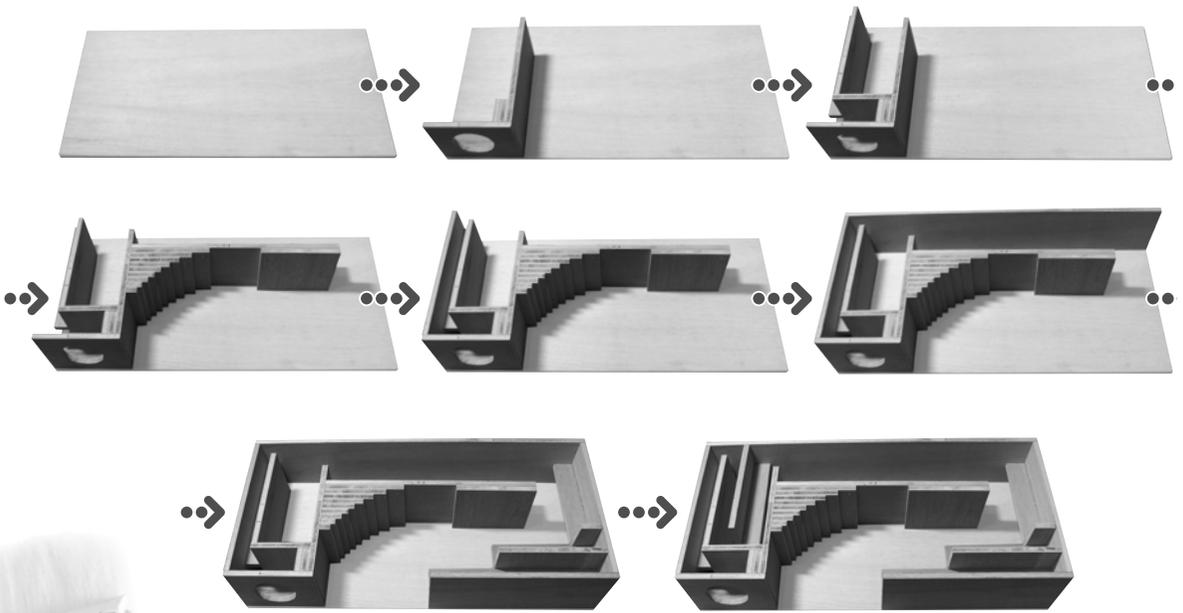


## ◎ 組み立て

加工してもらった部品を、説明書の手順を見ながら木工用ボンドで貼っていきます。「音道」と呼ばれるスピーカー内部の、音の通り道になる構造部を、5ブロックに分けて組み立てていきます。加工したての各部品は、ささくれが残っていたり、断面が荒れたりしています。これらをヤスリで軽く削り落としてからボンドを塗って、貼り合わせていきます。部品を間違えないように、サイズを定規で確認しながら、慎重に進めます。貼り合わせることは、プラモデルの組み立てのようで案外簡単です。ただ、接着剤を乾かす必要があるため、貼っては乾かし、また貼っては乾かし…と、時間をかけて組み立てていきます。



出来上がった内部構造の部品を、側板に貼っていきます。角を構成する部品が、側板の角とピッタリ合うように微調整しながら進めます。



吸音材を貼り付けます。



組み立てていくうちに、各部品の誤差により、角が合わなかったり、隙間が空いてしまっているところがありました。そこをヤスリで削って調整しました。



反対側の側板を貼り付けます。音道は部品が上からぶら下がる構造なので、その補強を狙って何箇所かに釘を打ちました。

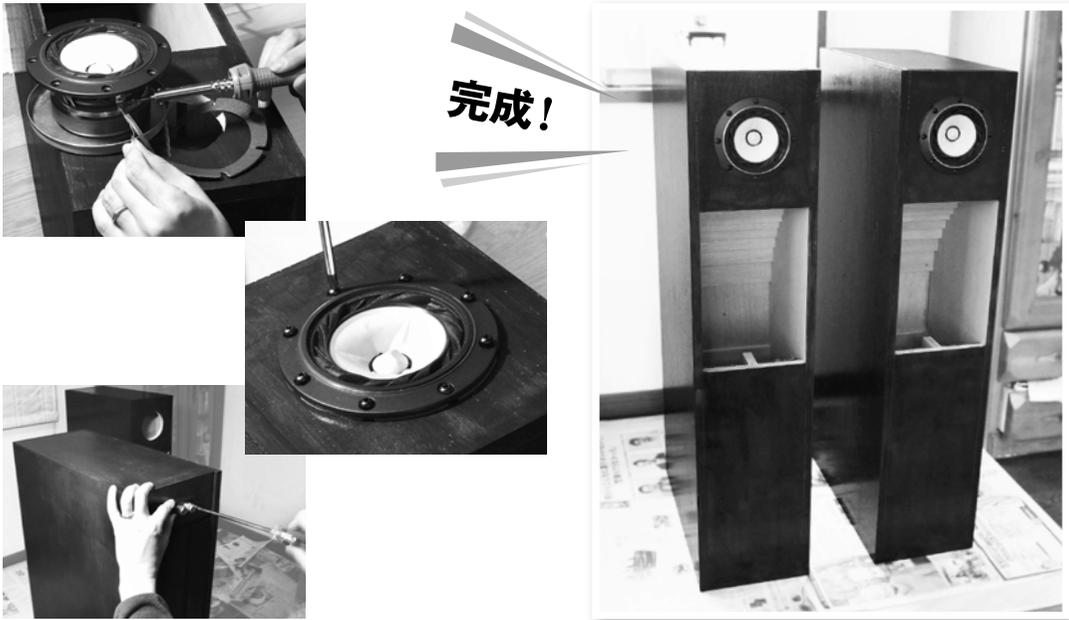
## ◎ 塗装

エンクロージャーの塗装は、音の向上に寄与すると言います。また、見た目も良くなるので、ニス塗りしました。まず、エンクロージャーの表面を紙やすりで削り、表面を滑らかに。その後、〈ニス塗り～乾燥〉を二度繰り返しました。



## ◎スピーカーユニットとターミナルの取り付け

スピーカーユニットとターミナルをケーブルに半田付けします。その際、極性を間違えないように注意します。スピーカーユニットとターミナルをエンクロージャーに取り付け、完成です！



## ◎出来上がったスピーカーの試聴

スピーカーをケーブルでアンプに接続します。わくわくしてケーブルのプラスとマイナスの極性を間違えないように！ 完成したスピーカーは奥行きがあり、背高ノッポな姿（高さ90cm、幅20cm、奥行き44.5cm）をしています。やや大型ではありますが、幅が20cmと小さいことが幸いし、家具を横へ少々移動させてスペースをつくり、スピーカを収めることが出来ました。

さて、ようやく完成したスピーカーを、家族で試聴してみることにしました。娘の愛聴盤「白鳥の湖」（チャイコフスキー作曲）のCDを再生すると、まずは直径10cmのスピーカーユニットから出ているとは思えないほど、スケールの大きな音が出てきたことに驚きました。高音域のヴァイオリンやオーボエ、トライアングル、シンバルや、低音域のコントラバス、大太鼓、ティンパニなどが、バランスよく豊かに響きます。「本当にこの小さなユニットから出ている音なの？」という感じです。「このCDって、こんなにいろいろな音が入っていたんだ。」というのが娘の感想。確かに、埋もれてしまいそうな細かな音まで再生され、こんな音も入っていたのだと気づかされます。例えて言うなら、霧が晴れて視界が広がったように、音の情報量が多くなった感じがしました。

エンクロージャーの製作には延べ8日ほどかかりましたが、木を削ったり、貼り合わせたり、組み立てたりと、木工が好きな方なら十分に楽しめること請け合いです。そして完成するとこんな素敵な音が！ 読者の皆様も、休日に楽しいスピーカークラフトをいかがですか。

取材協力：フォスター電機（株）<http://www.fostex.jp/>

コイズミ無線（有）<http://www.koizumi-musen.com/>

参考文献：「世界でただひとつ自分だけの手作りスピーカーを作る」講談社

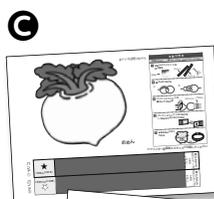
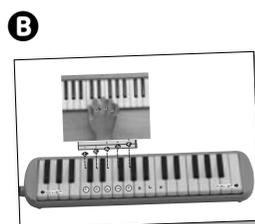
「長岡鉄男のオリジナル・スピーカー設計術⑤ こんなスピーカー見たことない【製作実践編】」音楽之友社

# 「授業お役立ちシート集」のご紹介 編集部

音楽の授業でご使用いただくために、プリンターで印刷するだけで使用可能なPDFファイルの資料をご用意いたしました。弊社のホームページからダウンロードしてお使いいただけます。是非ご利用ください。

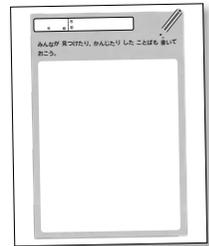
教育出版ホーム <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/> ▶ 小学校のサイト ▶ 音楽 ▶ 指導資料 ▶  
平成27年版「小学音楽 音楽のおくりもの」授業お役立ちシート集 1～3, 4, 5～6年

学年	頁	内 容
1年	P.16	「たん」と「うん」 掲示物 <span style="float:right">A</span>
	P.18	「リズムづくり」 書き込みシート
	P.26	「どれみのたいそう」 掲示物
	P.36	「せんりつづくり」 書き込みシート
	P.36	けんぱんの「おさえかた」 掲示物 <span style="float:right">B</span>
	P.41	「ほかのがっきでもためしてみよう」 書き込みシート
	P.43	「もっとあそぼう」 書き込みシート
	P.44	「きよくのながれ」 掲示物
	P.55	「ほしのおんがくをつくろう」 掲示物
	P.57	「おおきなかぶ」 おめん <span style="float:right">C</span>
2年	P.13	「どうぶつラップであそぼう」 おめん
	P.15	「音ぶと休ふ」 掲示物
	P.16	「リズムのれい」 掲示物
	P.17	「8分休ふ」 掲示物
	P.19	「ドレミでお話し」 掲示物
	P.29	「どんな音がきこえるかな」 書き込みシート
	P.33	「歌にぴったりの楽きを見つけよう」 掲示物



	P.39	「おまつりの音楽をつくろう」書き込みシート	
	P.69	「音楽をあらわすいろいろなことば」掲示物	
	P.69	「みんなが見つけたり、かんじたりしたことばも書いておこう」書き込みシート	
	P.69	「音ぶの長さ」掲示物	
3年	P.7	「ブレス」掲示物	
	P.9	「楽ふのお話」掲示物	
	P.9	「ふ点2分音ぶ」「ふ点4分音ぶ」掲示物	
	P.20	「シの音でお話しよう」掲示物	
	P.23	「シラソでリレー」掲示物	
	P.28	「せんりつをつくろう」掲示物	
	P.31	「せんりつ1～3」掲示物	
	P.33	「チェロのせんりつ・ピアノ」掲示物	
	P.45	「もっとあそぼう」掲示物	
	P.49	「ファランドール」掲示物	
	P.49	「ファランドール」書き込みシート	
	P.54	「よびかけこで森の音楽をつくろう」 掲示物/書き込みシート	
	P.71	「音楽を表すいろいろな言葉」掲示物	
	P.71	「みんなが見つけたり、感じたりした言葉も書いておこう」 書き込みシート	
P.73	「リコーダーの指づかい」掲示物（3～6年共通）		
4年	P.13	「音ぶと記号」掲示物	
	P.18	「4分の2びょうし」掲示物	
	P.19	「もっとあそぼう」掲示物	
	P.20	「4分の4びょうし」掲示物	

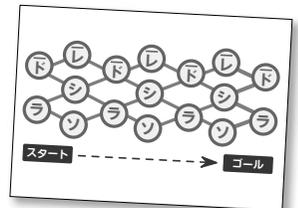
D



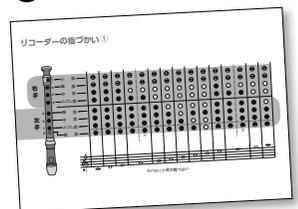
E



F



G



H









第14回

# 地球となかよし メッセージ 作品募集(2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

応募期間 2016年7月1日～9月30日  
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

作品  
テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
 \*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
千101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



## 年の差 何才?

ぼくは、この夏、鹿児島県にある屋久島に行きました。屋久島には、まるで今にも動き出しそうな不思議な形をした屋久杉がたくさんありました。材木に適さないくらいねじれたり曲がりたりしているものや、伐採された後の切り株や倒木の上に種が落ちて育ったもの。理由はさまざまです。その中で、ぼくは、まるで握手を求めているようなコケむした大きな樹を見つけた。「やあ、よく来たね。」「こんにちは。おじゃましています。きれいな森ですね。あの、ぼく達の年の差は何才でしょうか?」「さあ、何才かのお?」そんな会話が、聞こえてきませんか?

小学音楽通信 Spire\_M [2016年 春号] 2016年3月31日 発行

表紙写真協力: フォスター電機(株)

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光  
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411